



いのちの日便り

2018.3.2
 山形市立第一中学校
 いのち推進プロジェクト
 第10号

第3回読み語り♪

2月16日(金)の「一中いのちの日」は、今年度3回目の読み語りでした。1・2年生は学年担任の先生方、3年生は学年を越えた先生方が読み語りを行いました。様々な出典より、読み手の先生方自身が心動かされたお話を読んでくださり、心温まる一時を過ごすことができました。

学級	名前	題名	作者名
3-1	櫻井雅人先生	愛の贈りもの	星野 富弘
3-2	伊藤美智子先生	ある母親の手記	小林 明日美
3-3	植松哲也先生	たくさんのドア	アリスン・マギー
3-4	山口弘治先生	15歳から学ぶ「陽転思考」のきほん	和田 裕美
3-5	齋藤隆行先生	こころのおそうじ。	たかた まさひろ
ひまわり	齋藤厚志先生	モチモチの木	斎藤 隆介
2-1	長岡縁先生	なつみはなんにでもなれる	ヨシタケ シンスケ
2-2	岩田栄彦先生	考える練習をしよう	マリリン・バーズ
2-3	武田明美先生	まくらのせんじん	かがくい ひろし
2-4	岸野正子先生	ルリユールおじさん	いせ ひでこ
2-5	三瓶大輔先生	おとうさんのちず	ユリ・シュルヴィッツ
1-1	佐藤悠介先生	綱渡りの男	モーディカイ・ガースティン
1-2	須賀信子先生	せいぎのみかた ワンダーマンの巻	みやにしたつや
1-3	草苅彰弘先生	大人になれなかった弟たちに	米倉 斉加年
1-4	大場薫先生	チェロの木	いせ ひでこ
1-5	櫻井秀憲先生	わたしの「やめて」	自由と平和のための京大有志の会 声明書

生徒のみなさんの感想より

- ☆ どんなことでも、やろうと決めたことは必ず実行するという部分をきいて、私もやとう決めたことはあきらめず実行し、最後まであきらめないようにしたいなと思いました。
(1年1組 杉野 あいさん)
- ☆ 自分の人生そのものだと思えるほど夢中になれるものがあったてすごいなと感じました。いつか自分も人生そのものだと思える何かに出会ってみたいと思いました。
(1年1組 會田 夢さん)
- ☆ ワンダーマン1号が最後に言った「本当の正義のみかた」というのは悪い人を力でおさえるのではなく、悪い人にも優しくしてあげたときに改心させることなのではないかと思いました。なので、誰かが悪いことをしたら、その人を皆でせめたりするのではなく、優しい言葉で教えてあげて改心させることが大切なんだということを意識して生活しようと思いました。
(1年2組 田澤 香那さん)
- ☆ 自分のしたことは後で返ってくると思った。相手のことも思いやって生活しようと思った。本当のせいぎのみかたはどんな人でもやさしくできる人だと思った。
(1年2組 元木 湧太さん)
- ☆ 戦争のような辛く、ひもじい体験をした人たちは今生きる若い人たちよりも何倍も強いんだろうと思いました。今から百年後、千年後どうなっているか分からないけど、ここで戦争の話絶えさせないように後世へとつないでいくことが大切だし、それが僕たちの役割だと思いました。
(1年3組 田中 大翔さん)

- ☆ 戦争では本当に何もなくなってしまうのだとすごく感じた。今、私は苦勞せずいろいろなものを手に入れ、食べて暮らしている。でも、この時代はそんなことができなかつただと悲しくなつた。弟が死んでしまつてかわいそうだと思つた。(1年3組 田中 理沙さん)
- ☆ 家族がいるのはすごくありがたいと思つた。どんなときも一緒に過ごしてくれて、見守ってくれるから今の自分になれたと思うので、家族に感謝しなければいけないと思つた。(2年1組 細谷 建斗さん)
- ☆ 読み語りを聴いて、自分にもあんな時代があつたのかなと考えると暖かい気持ちになれました。いろいろな視点を持つことは大切だなと思つた。(2年1組 齋藤 友香さん)
- ☆ 今日の読み語りを聞いて、僕は一つの考え方に集中しすぎて、自分で視野を狭くしているのだと気づきました。もっとまわりの様々なことに目を向けて、広い視野を使って人生の幅を広くしていくことが大切だとわかりました。(2年2組 佐藤 修人さん)
- ☆ 一つの考えにとらわれず、物事を柔軟に考える大切さを学びました。また、ほんのささいなことでも疑問に思えば新しい発見がたくさんできると知りました。これからは小さなにも目を向けて、「なぜ？」と思う習慣をつけたいです。(2年2組 本田 祥太郎さん)
- ☆ 「まぐらのせんにな」と言う本はさかさまにすることで話がつながつていて、面白いと思つた。豊かな経験が大切だと思つた。(2年3組 石井 ももさん)
- ☆ 自分の力だけでは解決しないけど、まわりに協力を求めて助け合うことで、解決できることがあると思つた。まぐらのせんにな」のように大変なときには自分から発信して、助けを求める力もつけていきたいと思つた。(2年3組 縮 穂乃花さん)
- ☆ 「自分の周りの人たちはいつも自分を支えてくれている。」ということをおぼろげに思つた。そして、周りへの感謝をおぼろげに思つた。そして、周りへの感謝をおぼろげに思つた。(3年1組 河合 優さん)
- ☆ どんな身であっても、「周囲の人の心を糧に生きる」大切さを感じました。「不自由な身も関係なく、周囲の人の心は変わらない」ことを体が不自由である人だからこそ伝えられることだと思つた。私は、体が自由に動くので、小さなことでいらだつていないで、自由に動く体に感謝して生きていく必要があると思つた。(3年1組 阿部 有希さん)
- ☆ 今回、受験という一つの目標に向かつて行くにあつて一番そばにいて支えてくれるのは親なのだと思つた。親に感謝しながら残りの受験勉強を頑張ろうと思つた。(3年2組 梅村 真雄さん)
- ☆ 今、自分がこの場において、生きてるのは母が痛みもつらさもすべて乗り越えて私を産んでくれたからなのだとおぼろげに思つた。いつも私が悩んでいたら一緒に悩んでくれる。ときには、励ましてくれたり、ときには怒ってくれる母に感謝の気持ちを精いっぱい伝え、恩返しできるようにしたいと思つた。また、美智子先生がおっしゃったことわざのように、生まれたときには喜ばれ、亡くなったときには悲しんでもらえる、そんなひとになれるように成長したいと思つた。(3年2組 齋藤 鈴さん)
- ☆ 今までは大きく考えていなかったけれど、これからは「社会」ということについて考えていきたいと思つた。そのためにはドアを開けるというようにこれからの人生は自分で道をつくつて行かないといけないのだと思つた。(3年3組 鈴木 智也さん)
- ☆ 今日明日もたくさんのドアが待っていて、そのドアの向こうに何があるかはわからないけど開けることが挑戦であり、次への大きな一歩だと思つた。一つのことにはたくさんのドアがあり、迷うときもあるけれど、自分なりの答えを出して積極的にドアを開けていきたいと思つた。(3年3組 武田 虹来さん)